



校長会



No.52

三重県小中学校長会 広報 第52号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
 ●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり

地域の中で、教職員とともに！



熊野市立井戸小学校

校長 前川 潮美

今年度、教職生活のラストイヤーを迎えています。本校での勤務は昨年度からですが、教員として勤務した学校に管理職として勤務するのは本校が初めてです。当時は学年二クラス、全校児童も三百人を超えていました。今では学年一クラス、児童数も百五十人と半数に減っていますが、地域の方の子どもたちに注がれる眼差しは変わらず、温かさを感じる毎日です。日常的な登校の見守りや、二十年程前に太鼓の指導に来てくださった方が、今も変わらず子どもたちに関わってくださいています。

また、今年度は、地域の方の田んぼで、田植え体験もさせていただきました。子どもたちを地域の宝として、見守り育てていただいていることに感謝しています。地域の方とつながり、地域を舞台にした教育活動をコーディネートすることは、校長としての大きな役割だと感じています。

四月の学校便りには、「今年も『児童・保護者・地域の方が行きたくなる井戸小！』をめざします」と書きました。そして、教職員には「子どもの一番近くで働く大人として『早く大人になって、あんなに楽しく働いてみたい！』と子どもたちに思わせてやりましょう。」と話しました。現実的には、将来先生になりたいと答える子がほとんどいないのが現状ですが、昨年度の児童アンケートに「先生と支援員の先生に憧れて先生になりたい」を見つけて、思わずガッツポーズをしました。教職員の業務は、子どもへの指導や保護者対応、学習指導要領完全実施にむけた準備等、増えることはあっても減ることはありません。それでも、同僚の悩みを自分事として一緒に悩み、改善策を絞り出してはチャレンジし続ける教職員に助けられています。教職員との対話や授業参観、校長室だよりを発行しながら、教職員一人一人とつながり、教職員をつなぐ役割を最後までしっかりと果たしたいと思います。【子ども、保護者、地域の方が行きたくなる学校】その基本は「先生たちが行きたくなる学校」だと考えます。

会長挨拶

変革期を千載一遇の機会に



三重県小中学校長会

会長 森田 定

年号が令和となり、新たな時代が到来したように感じます。教育においても、新学習指導要領の全面実施が迫り、Society5.0（超スマート社会）に向けた人材育成が求められるなど、今、時代は大きな変革期にあります。そしてその変革は、先の課題を積み残してしまうようなスピードで押し寄せ、学校現場にも過密な日程をもたらしてもいます。正に学校は変革という時代の荒波の中にあり、それゆえ私たち校長は、これまで以上の役割が求められていることは言うまでもありません。

さて、私事で恐縮ですが、平成元（一九八九）年から三年間、在外教育施設の教員としてベルギー王国のブリュッセルへ派遣されました。派遣中、日本の中学校に相当する現地校を研修の一環として訪問する機会があり

ました。その際、日本の学校との大きな違いに驚いたことが思い出されます。そこには、日本の四十五人学級（当時）とは比較にならない少ない生徒数による授業であったり、授業の合間にサロンのような部屋で同僚と談笑し喫茶を楽しんでいる教員の姿などがあつたりして、そのゆとりある学校の風景を大変うらやましく感じました。

ところが現在、日本の教育いわゆる日本型教育は諸外国から注目され、これを輸入しようとしている国も多いと聞きます。日本型教育は教員が教科の内容だけを教えるのではなく、清掃活動や給食当番、学級活動、部活動を通して子どもたちを総体的にケアし、社会性や感情面の成長も含め支えてきたことが評価されているからです。またインターネット上で、「大きな自然

災害が発生し混乱した状態においても、暴動などが起こらず社会の秩序が維持されるのは、日本型教育の成果ではないか」という外国人の考えを目にしたこともあります。

このように、高い評価を受けるようになった日本型教育ではありますが、その背景には教員のまさしく超人的な努力があつたことは紛れもない事実です。すなわち、子どものためであればどんな長時間勤務も良しとする働き方の中で、教員に長時間の労働と重い責任を課していたことに他なりません。この従来の働き方に対し、「学校における働き方改革」という大きなメスが入れられようとしています。

つまり、「長時間労働により教師が疲弊していくのであれば、それは子どものためにはならない」（本年一月二十五日 中教審答申）という考えのもと、私たちの社会が子どもたちを最前線で支える教師たちがこれから自らの時間を犠牲にして長時間勤務を続けていくことを望むのか、心身ともに健康にその専門性を十二分に発揮して質の高い授業や教育活動を担っていくことを望むのか、今まさにその選択が問われているのです。

また、時代のうねりともいえるべき変革への対応は、他にもあ

ります。新学習指導要領の全面実施が目前に迫る中で、「学力の向上」「いじめ・不登校への対応」「道徳の教科化」「グローバル化に対応した外国語教育」等、その対応は急務であり、多岐にわたっています。それゆえ学校運営をリードする私たち校長は息つく間もない状況にあります。最早こうした変革等に躊躇してはいられません。日本の社会全体が大きく舵を切ろうとしている中、一連の変革を肯定的に捉え、学校教育の更なる質の向上に繋がる「千載一遇の機会」と考えるべきではないでしょうか。

三重県小中学校長会は、先の総会で活動方針にも示しましたように、新しい時代の要請に応じるため組織力を生かし全会員の英知と情熱を結集して、「学校からの教育改革」「教育諸条件の整備・充実」等を積極的に提言し、本県義務教育のより一層の振興を図ってまいります。

また、厳しい学校運営を担わなければならない私たち校長が、よりモチベーションを維持できるように、職務等の改善に取り組んでまいりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和元年度 三重県小中学校長会 役員・監事及び事務局

◇会長（兼中学校部会長） 森田 定【四日市市・桜中】	◇副会長（兼小学校部会長） 山本 究【伊勢市・厚生小】	◇監 事 野田 幸範【松阪市・潮見小】
◇副会長（兼中学校副部会長） 山田 洋一【鈴鹿市・平田野中】	◇副会長（兼小学校副部会長） 野々 文彦【員弁郡・笹尾東小】	杉浦 裕一【桑名市・陵成中】
中川 克巳【津市・東橋内中】	山下 高弘【北牟婁郡・上里小】	
◇幹 事（兼中学校幹事） 小林 弘明【多気郡・多気中】	◇幹 事（兼小学校幹事） 伊東 直人【津市・藤水小】	《事務局》
掛橋 敏也【鳥羽市・答志中】	中瀬 鉄夫【松阪市・宮前小】	◇局 長 大西 学
篠木 素道【名張市・赤目中】	西口 修身【伊賀市・阿山小】	◇次 長 森田 正美
		◇局 員 宮田 典子

委 員 会 活 動

学校経営委員会

委員長 加藤 剛



五月十四日午後、第一回学校経営委員会を開催し、新たな委員で役員の選出及び昨年度の活動をもとに、今年度の活動方針と年間計画を決定し、当面の活動の確認を行いました。

具体的には、各学校の現状や要望等について、郡市校長会へ意見集約を依頼しました。

○本年度の活動方針（概要）

(1) 県内全小中学校校長から、三重県教育委員会の施策や予算等に関する意見を集約し、要望の焦点化を行い、「重点項目」を設定します。

(2) 集約した意見を「要望書」「解説書」に取りまとめ、次年度の小中学校の充実発展に資するように要望活動を行います。

(3) 昨年度の要望活動を踏まえ、子ども・保護者・地域・教職員の具体的な事例に基づいて要望活動を行います。

(4) 取りまとめについては、昨年度までの確認事項を尊重しつつ、要望書の信頼性を高めるように努めます。

私は、今年度四日市市から川越町に転勤しました。隣接の市町であつても、施策やそのための予算立てがかなり異なります。

三重県教育委員会への校長会としての要望は、けっして「校長のわがまま」ではなく、三重県の教育全体の充実を図るためにどうしても必要なことであると、しっかりと訴えたいと考えております。

そして、県内すべての小中学校で等しく充実した教育活動が展開されるよう委員十一人、担当役員三名で、一つでも多くの前進が見られるよう努めていきたいと考えております。

会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

進路指導委員会

委員長 井上 征樹



五月十六日に第一回進路指導委

員会を開催し、生徒の視点に立ち、不利益を被ることがないように、より良い進路指導を行い、生徒・保護者にとってより満足度の高い制度改革に取り組めるよう委員会の運用を進めて行くことを確認致しました。そのためには、昨年度の経緯を踏まえながら、県内各地域の状況に応じた柔軟な姿勢も大切にし、各関係機関との協議等を行い、現行制度の課題改善に向けて意見交換をさらに進めていきたいと考えています。以下に今年度の活動方針と活動計画を示します。

一 活動方針

(1) 児童生徒の理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進します。

(2) 県内各小中学校間の情報交換に努めます。

(3) 三重県教育委員会・三重県立学校長会・三重県私学協会等の関係諸機関と協議し、現行入学者選抜の課題や入学者選抜制度、高校活性化問題の改善に努めます。

(4) キャリア教育についての研修に努めます。

二 活動内容

(1) 第一回 五月十六日

① 活動方針・活動計画の決定

② 現行選抜制度の課題について

(2) 第二回 六月十三日

① 進路指導に関わる要望のまとめ

② 県教委への「要望書」作成

(3) 第三回 七月二十五日

① 要望書に対する「回答」につ

令和元年度 研究大会

★第56回三重県小学校長教育研究大会

日時 令和元年7月30日(火) 午前：全体会 午後：分科会

会場 全体会 三重県総合文化センター 多目的ホール
男女共同参画センター 内各会場

分科会 三重県総合文化センター内各会場
研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

一夢の実現に向けて主体的・協働的に学び、共に未来を切り拓こうとする子どもを育む学校経営の推進

講演会 講師：皇學館大学 現代日本社会学部 現代日本社会学科教授 岸川 政之 様
演題：「～高校生レストランの仕掛け人が語る～
『未来の大人たちに私たちができること！』」

★第56回三重県中学校長研究大会

日時 令和元年8月22日(木) 午前：全体会 午後：分科会

会場 全体会 三重県男女共同参画センター 多目的ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場

研究主題 「新たな時代を切り拓き、
よりよい社会を創り出していく人を育てる中学校教育」

講演会 講師：相山女学園大学教育学部 教授 宇土 泰寛 様
演題：『 (未定) 』

令和元年度 三重県小中学校長会・理事一覧

郡市名	小学校理事		中学校理事	
	名前	所属校	名前	所属校
桑名市桑名郡	古川 千登世	多度東小	加藤 久	多度中
いなべ市員弁郡	川村 光次	三和小	服部 健	大安中
四日市市	坂本 豊治	下野小	小林 正英	楠中
三重郡	加藤 剛	川越南小	渡部 克博	菟野中
鈴鹿市	原 裕	飯野小	岡野 優子	鼓ヶ浦中
亀山市	伊達 弘	川崎小	花岡 繁治	関中
津 市	古谷 正和	戸木小	森 昌彦	東観中
松阪市	齋藤 実	掬水小	高橋 秀敏	鎌田中
多気郡	横打 幸也	勢和小	丸一 克也	宮川中
伊勢市	服部 朱美	上野小	平本 秀次	城田中
度会郡	小倉 桂吾	大宮小	濱口 誠	大紀中
鳥羽市	谷 まゆみ	弘道小	藤井 英一	加茂中
志摩市	舟戸 由美	浜島小	石野 國昭	大王中
伊賀市	西口 仁嗣	西柘植小	澤 久忠	島ヶ原中
名張市	山田 貴志	美旗小	中森 早苗	名張中
尾鷲市	米倉 すが	向井小	奥田 秀紀	潮南中
北牟婁郡	小川 智久美	三浦小		
熊野市	阪井 宏行	五郷小	立嶋 信雄	御浜中
南牟婁郡	植前 健	阿田和小		

いての協議

(4) 第四回 十月一日

①三重県私学協会及び私立高等学校・高等専門学校への要望検討

(5) 第五回 十月三十一日

①キャリア教育研修会の開催

②三重県私学協会への要望報告

(6) 第六回 十一月二十六日

①私立高等学校並びに高等専門学校への要望報告

②年間活動の総括及び総会での報告内容について検討

生徒指導委員会

委員長 坂本 豊 治



他校の取組に学ぶ場に

先日、第一回目の生徒指導委員会を持ちました。今年度の活動方針・活動計画について話し合った後、出席した各委員の所属校の生徒指導上の諸課題について現状を出し合い、情報交換をしました。学校規模、地域性、児童・生徒の実態等様々ではありましたが、聞かせていただくと「本校でも同じような子がいるなあ。」「なるほ

特別委員会

委員長 齋 藤 実



「子どもの笑顔のために」

教員となった教え子と再会し、話す機会がありました。その先生は、私がどんな授業をしたのか、どんな話をしたのか鮮明に覚えており驚かされました。

教員を目指した理由は人それぞれですが、「子どもが好き」という気持ちが大きいと思います。子どもたちと向き合い信頼される喜びや、子どもたちの笑顔を近くで見守ることができるということに私たちは喜びを感じると思います。また、私たち教員の姿も大きな影響を与えていると思います。

長時間労働が課題になっている今、学校はしっかりと子どもと向かい合える場になっているでしょうか。そこで、本年度、特別委員会で、「働き方改革」を柱に据え、取組を進めていきたいと考えております。

働き方改革の目指すことは、教員の心や体の健康を守ること。そのことが、研さんの時間を生み出

し、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながり、そして子どもたちの笑顔につながると考えます。

また、私たちの生き生きとした姿が、教員を志す新たな人材の確保につながることを願います。

一 活動方針

「働き方改革」の取組について、各学校現場や市町の取組の交流を深め、課題を整理し、これからの展望を含めた方向性を議論します。

二 活動計画

(1) 各学校、市町の取組の交流（アンケートの実施）
(2) アンケート結果から、課題や今後の展望の提言

広報委員会

委員長 古川 千登世



中央教育審議会の働き方改革に関する答申の目玉は「月四十五時間、年間三百六十時間」。新聞等のメディアはこの上限ガイドラインを大きく取り上げました。

校長のリーダーシップのもと、働き方改革をどのように学校経営に落とし込んでいくのかを問われ

つつも、四月の超多忙な日々から始まり、夏休み前になっても忙しさは相変わらずで、時間外勤務縮減に頭を悩ませている校長先生方も多いことと思います。

広報委員会では、少しでも会員の皆様のお役に立つような記事を作成し、また、「校長会みえ」が皆様のコーヒープレイクのお伴になりますよう、魅力ある紙面づくりに努めてまいります。

一 活動方針

(1) 広報活動をとおして、会員相互の連携意識の更なる向上を図る。
(2) 会員の声を幅広く掲載するとともに、写真を充実させ、親しめる紙面作りに努める。
(3) 年三回発行し、情報提供に努める。

二 活動計画

(1) 七月、十二月、三月に会報を発行する。
(2) 編集内容は、①「私の学校づくり」②「今日の課題の克服に向けて」③「特別寄稿」④「新任校長の声」⑤「ちよつといひ話」⑥「あの時、あの人」⑦「私の薦める一冊」⑧「随想」⑨「研究大会参加報告」⑩「地区校長会だより」⑪「本部役員だより」とする。

(3) 紙面構成は、八面・カラー印刷。
(4) 会員への執筆依頼は、当該地区の理事を通じて行う。

原稿執筆をしていただきます校長先生をはじめ、皆様のご協力をお願いいたします。

特別寄稿

社会情勢の変化に対応していくために



三重県教育委員会事務局

副教育長 宮路 正弘

三重県小中学校長会の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より本県教育、とりわけ小中学校教育の充実・発展に日々ご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

(次期三重県教育ビジョンの策定に向けて)

さて、本年は現行の三重県教育ビジョンの最終年度にあたります。

現行のビジョンについて振り返ってみますと、子どもたちの希望と輝く未来の実現に向けて、取り組む必要のある課題も残っています。

その一方で、体力の向上については平成三十年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査で、小学校男子・中学校男女が全国平均値を上回ることができました。

次期教育ビジョンの策定にあたっては、現在の各施策の振り返りや現行ビジョンの策定以降の状況変化、新たな課題を踏まえつつ、子どもたちに変化の激しい社会において、豊かな未来を切り拓く力を育めるよう、皆様のお力もお借りし、施策・取組を推進していきたいと考えているところです。

(新学習指導要領について)
また、改訂された新学習指導要領が、小学校では令和二年度から、中学校では令和三年度から、全面实施となります。新学習指導要領でめざす「社会に開かれた教育課程」実現のため、その趣旨や内容について保護者等への十分な周知をお願いしているところではございますが、学校においても、教科等横断的な授業づくりを行ったり、地域と連携した取組を一層進めたりするなど、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの充実に努めていただきますようお願いいたします。

(教職員が働きやすい環境づくり)
さて、教職員が働きやすい環境づくりに向けては、本年一月に、文部科学省から「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が通知されました。ガイドラインでは、教育委員会が所管の学校における教師の勤務時間の上限に関する方針等を策定するとともに、勤務時間の長時間化を防ぐための方策を実施するよう求めています。

本年三月の文部科学事務次官通知において、学校における働き方改革の目的は、「教師のこれまでの働き方を見直すことで、日々の生活の質や教職人生を豊かにし、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること」とされています。

県教育委員会としても、子どもたちに対して、より効果的な教育活動ができるよう、学校における働き方改革にしっかりと取り組む必要があると考えており、具体的な取組の検討を進め、各市町等教育委員会、各学校と一体となって、県全体で総勤務時間の縮減に取り組んでまいります。

(おわりに)

最後になりましたが、三重県小中学校長会の益々のご発展と皆様方の一層のご活躍を祈念いたします。

平成 30 年度末
退職校長感謝の集い

平成 31 年 4 月 6 日(土) プラザ洞津



来賓挨拶



実行委員長挨拶



退職校長代表挨拶



感謝状贈呈



教育長会長挨拶



新任校長の声

開校三年目、 小中一貫校として

いなべ市立藤原小学校
校長 片山 司



毎朝、校門の前の坂に立って、子どもたちを迎えると、自転車通学の中学生に混じり、小学生が徒歩やスクールバスで登校してきます。「おはようございます。」元氣よく挨拶をして、同じ校舎に向かいます。小中学校のほぼ全員と挨拶を交わすことで、私自身が毎朝、子どもたちに元氣をいっぱいもらっています。

藤原小学校は、全校児童二五二名、二年前『施設一体型小中一貫教育』をめざし藤原中学校区の五校が統合、藤原中学校の敷地に校舎を建設し、藤原小学校として開校した新しい小学校です。開校三年目の今年度は、「小中学校」とし

てコミュニティスクールの指定を受けての取組を始めることになりました。

全ての活動のベースになるのは「信頼関係」。まず、子ども同士の「信頼関係」、「教職員」と「子ども」との信頼関係、「保護者」との信頼関係、そして「地域」との信頼関係、活動の原動力となる職場の仲間との信頼関係。いくら私たちが正論を言っても信頼関係がなければ通じないことがたくさんあります。その信頼関係をつくるためには、子ども・保護者・地域・仲間の声に耳を傾けることが第一歩というのを第一回の職員会で伝えました。

まだまだ統合の名残もある中で、二年間の活動を整理し、新たに取組の優先順位をつけるのは校長としての大事な仕事です。この一年間「信頼関係づくり」を意識して取組を進めていきます。

『みんなで創ろう 一人ひとりが輝く 藤原小・中学校』これは玄関前に掲げられた言葉で、これまでに藤原中学校が大事にしてきたスローガンです。これからは小学校

を加えた九年間を意識し、児童生徒はもちろん、小中学校職員ともに輝ける学校を創っていかうと思っています。

「天空の学校」へ 来てだ〜こ!

伊賀市立玉滝小学校
校長 増田 瑞穂



本校は、伊賀市の最北部に位置し、滋賀県甲賀市に角のように突き出したところの山の上にある学校です。校長室からは、遠くには伊吹山が、東には鈴鹿山脈が目の高さで眺めることができ、よく晴れた早朝には霧が発生し、雲海に包まれた姿は、まさに「天空の学校」として、幻想的な風景を醸し出しています。

通勤途中は、鹿・猿・鷹・雉・狐・栗鼠など、さまざまな動物たちと遭遇し、学校では、明るく元氣で笑顔が素敵な五十二人の子どもたちが迎えてくれます。その子どもたちが喜んで登校 満足して下校」できるよう、職員十四人でチームとして取り

組んでいます。

私の日課は、各教室に入って子どもたちの姿をカメラで撮ることです。「課題について考え込んで悩んでいる表情」「仲間と頭を寄せ合い話し合っている姿」「わかったときのにっこりした笑顔」など子どもたちの表情はさまざまです。その写真を校内に掲示したり、学校だよりやHPに載せたりしています。

今年の二月の中頃、大先輩で青年部のときから公私にわたってお世話になった前校長の番條克則先生が急逝されました。その数日前に阿山小との交流会のときお会いし、「増田君、僕ももう少しで退職や。やつと肩の荷がおりる。」と笑顔で語ってくれていたのが印象的でした。

玉滝小へ赴任するときに、「阿山小との統合問題もあり、番條先生のもとと私に務まるだろうか」ととても不安でしたが、地域の方・保護者の方が温かく迎え入れていただき、とてもありがたかったです。

また、先生たちからも「校長先生がいてくれるだけで安心できる」とうれしい言葉をいただくとともに、校長としての責任の重さを感じている毎日です。

十一月二十二日には、文部科学省委託「人権教育総合推進地域事業」阿山中校区研究発表会を行い

ます。ぜひとも本校に来ていただき、番條先生が育てた先生たちの姿をみていただき、ご指導していただけるとありがたいです。

どうぞ「天空の学校 玉滝小」へ来てだ〜こ（来てください）!

一歩一歩を大切に!

松阪市立大江中学校
校長 平 野 修



大江中学校は単学級のたいへん小さな学校である。運動会やその他の多くの行事で地域の方々にご協力いただいております。日々、地域を身近に感じながら過ごしている。先日、地域主催の行事である『白猪山登山』に参加した。白猪山は校区にあり、校歌にも謳われている標高八百十九メートルの里山である。例年、職員と生徒が有志で参加し、町おこしに役かっている。登山は地域を知るための絶好の機会であると、赴任間もない私は曇りがちな天候を気にしながら開催を心待ちにしていた。

今年例年より参加者が多く、

三十人あまりで大盛況だった。一目で登山愛好家の方々とわかる集団の本格的な装備を気にしながら、私は登山用と言えなくもない靴と息子から奪い取ったリュックを背にして、日頃の不摂生で鈍りきった体をなんとか動かしながらかつて一歩一歩進んでいった。子どもたちが小走りに駆け上がったといった坂道をなんとか登りきると、「校長先生！大丈夫ですか？」と、小休止していた子らが屈託のない笑顔で声をかけてくれた。その心根のやさしさに感動しながらも「山頂まで十分の一」という標識を目にして愕然としていた。その後は言わずもがなである。

十分な準備をしてから取り組むことの大切さを身に沁みて感じながら、昔、テレビ放送されていたドラマ「ライスカレー」の一場面を思い出した。カナダへ渡り、功名心に焦るアキラ（陣内孝則）が、就職を斡旋してくれた紳士から「人は誰でも山頂を見る。でも山頂に達するには長い山裾を歩まなければならない。」とたしなめられる場面である。私は今、山裾に足を踏み入れたばかりである。学校目標をしっかりと示しながらも、結果ばかりを性急に求めず、職員や生徒と共に、毎日の一歩一歩の歩みを大切にして進めていきたい。

見える風景

尾鷲市立浜小学校
校長 上野 泰和



教諭として八年間勤務していた小学校に、五年ぶりに校長として着任し、一ヶ月が過ぎました。五年経っても、変わっていないことがあります。

子どもたちと一緒に取り付けた六年教室のフック、お話好きな新聞配達のおじさん、児童会役員と立ち上げた昼休みの全校遊び・・・どれも懐かしくて、思わずニヤリと笑ってしまいました。

六年生の子どもにいたっては、「上野先生」と五年前と何も変わらず、元気よく声をかけてきます。

変わったこともいくつかありました。

まず、教職員の構成が変わりました。養護教諭と給食調理員以外は、異動して新しいメンバーになっ

ていました。かつて在籍していた学校でありながら、全く違う学校にきたような感覚でした。

次に、複式学級がクラス新設されていきました。急激な児童数の減少により、全校の児童数が十年前の半分になっていて、驚きました。そして、行事が精選されていきました。修学旅行が二泊三日から一泊二日になり、廃品回収がなくなっていました。保護者や地域の理解を得ながら、ていねいに改善を進めてきた結果だと思いました。

でも、一番変わったことは、『見える風景』です。

同じ学校なのに、校長として学校を見てみると、教諭のときとは全く違う学校の風景が見えてきました。

教諭として、校内研修や生徒指導など学校全体に関わる分掌を担ってきたと思っていました。しかし、校長と教諭では、こんなに見え方が違うものと改めて感じました。

見え方が違うのは、「覚悟」の違いだと思います。

校長として、かつて在籍した学校に勤務するのとは何かの巡り合わせ。この「縁」を強みにして、教職員・保護者・地域と一緒に、子どもの学びと育ちの環境作りに全力で取り組みたいと思います。

二見浦ビーチクリーン大作戦

伊勢市立二見中学校
校長 古橋 雄洋



に「恩返し」をしたいとの思いからこの活動を始めたと話してくれました。

二〇一六年に行った第一回は三十三人の参加者でしたが、徐々に広がりを見せ、昨年度三月に行った第六回では、一三九人もの参加者があつたそうです。ここ数回は中学校の生徒にも呼びかけをしてみたい、個人でまたは部活単位で自主的に参加している中学生も多いと聞かせていただきました。

四月に校長として赴任した二見中学校は、校舎のすぐそばに、日本で最初の国指定の海水浴場「二見浦海水浴場」がある海辺の学校です。校舎から一歩外に出れば、波音が聞こえてきます。また、冬場の空気の澄んだ朝には、水平線のはるかかなたに富士山も見えるそうです。次の冬の朝が今から楽しみです。

四月の赴任してまだ間もない時期に、一人の青年が校長室に来てくれました。彼は二見中学校の卒業生で現在、大学に通っているということでした。

彼が高校を卒業する年の二〇一六年に、数人の二見中学校の同級生と共に、「二見浦ビーチクリーン大作戦」を始めたそうです。子どもの頃からずっと泳いだり、遊んだり、部活動の練習で走ったり、たくさん思い出がある二見の浜。その海や浜

が進んでいます。そんな中、彼らのような若い世代が、地元の家や浜を大切にしたいという思い、さらに実践している姿には、感謝の気持ちと、尊敬の念を抱きます。

この「二見浦ビーチクリーン大作戦」自体は、年に数回のことですが、そんな活動を通して、二見中学校の生徒たちが、彼らの思いに触れ、地元を誇りを持ち、地元を大切にする気持ちをこの先も育てていってほしいと思っています。

今年度も七月、九月、三月の三回「二見浦ビーチクリーン大作戦」が行われると聞きました。私自身も、可能な限りこの活動に参加し、生徒たちと共に、長い歴史をもつ二見浦海水浴場をこの先も大切にしていきたいと思っています。

地区校長会だより

伊勢市小学校長会

伊勢市小学校長会は、市内二十三校からなる組織です。中学校長会とともに、会員相互の緊密な連携によって、小学校・中学校に共通する諸問題の解決につとめ、本市義務教育の振興を図ることを目的として様々な活動をしています。主な活動としては、毎月一回の会議と夏休みの研修会があります。

毎月の会議は、会長挨拶と教育長挨拶から始まります。続く教育委員会指示・連絡まで、会員一人一人が、熱心にメモを取ります。会員が多く、同じ中学校区の先生方と今取り組むべき内容について、お互いに取組内容の確かめや情報交換をすることができ、とてもありがたいです。

教委からの指示・連絡が終わると、協議事項に入ります。県理事會報告や各担当校長からの連絡に続き、当面の課題について話し合います。平成三十年度は、台風の対応や熱中症対策、外国語教育に関わって時間割をどのようにしていくか等々、たくさん話題があ

がりました。そして、年間を通じて取り組んだのは、市の連合行事の見直しです。まずは十五の行事・取組について一回目のアンケートを行い、意見集約した後、出された意見一つ一つに対し二回目のアンケートを行い、検討を進めていきました。行事によっては三回目のアンケートも行いました。その結果、次年度へむけて改善の方向をまとめることができました。担



当だけではなかなか進まない改善も、本部役員のリーダーシップによって全体で話し合いを重ねること、で、よりよい方向に進めることができました。

今後ともより一層連携を図りながら活動を進めていきたいと思えます。

亀山市中学校長会

「歴史・ひと・自然が心地よい緑の健都かめやま」は、旧東海道沿いの自然豊かな歴史の街です。人口約五万人、児童生徒数は約四千名余です。中学校三校は、それぞれに亀山市の歴史と深く関わったところにあります。関中学校は関宿の街並みと一体になった木造の校舎、中部中学校は近くに日本武尊が亡くなった際に白鳥となつて飛び立ったとの伝説のある能褒野陵、そして亀山中学校は、亀山城跡の多聞櫓に隣接しています。

市内校長会は、十一ある小学校と合同で毎月一回定期開催しています。中学校長会では、三校の利点を活かし軽快なフットワークで、学校運営上の様々な課題について情報交換等を自由活発に行っています。また、日々の学校運営での悩み等についても率直に出しあったり、共通の課題について議

論したりすることを通じて、互いに学びあうとともに、自身の力量を高めることに努めています。

そして、亀山市の教育大綱の教育理念である「学びあふれる教育のまちかめやま」豊かな自然と歴史文化の中で『ふるさと亀山』を受け継ぎ未来を拓く学び」を意識し、基本方針にある①未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現②地域とともにある学校づくり③生涯を通じた学びの充実④地域で生きる人づくり⑤地域文化を生かした活動・交流による新たな文化の創造⑥「ふるさと亀山」を誇りに日々取り組んでいます。

校長会は二百近くの事業所の協力を得ている職場体験、平和への思いと願いを大切にする沖繩修学旅行、小中連携等の多くの特色ある教育活動に共通で取り組み、亀



山の教育がさらに発展していくことを目指しています。

編集後記

「平成」の時代から「令和」の時代へと移り、教育現場でも様々な変化がある中日々慌ただしい時間をお過ごしのことと拝察します。本校（桑名市立多度中学校）では、毎年修学旅行で沖繩県を訪れています。平和折念公園の視察や戦争を体験した方々の講話を直接お聞きし、戦争というものによる悲惨さや悲しみを知るだけでなく二度と起こしてはならないという強い決意を改めて抱かせてもらう機会となりました。我が国で戦争がなかった時代「平成」が終わりに「令和」という時代も、ICTをうまく活用しながら、やはり人と人とのつながり、思い、助け合えるそんな時代にしていかなければいけないと思います。

さて、新学習指導要領の実施に向けての取組や、教職員の総勤務時間の削減など、校長として取り組まなければならない課題も山積している中、三重県中学校長会としては、市町の枠を越えた「つながり」を大切にして日々の教育活動を進めていくことが重要であると考えております。広報委員会では、今年度も「広報みえ」を年三回の計画で発行させていただき、新年度が始まり慌ただしい中、第五十一号の執筆を依頼させていただきました。先生方には、快くお引き受けいただき誠にありがとうございます。今後の教育の動向を踏まえて最新の情報の提供に努めるとともに、会員相互の交流をさらに広げ、校長会組織の充実、発展に役立つ紙面づくりをめざしてまいりますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。